

令和4(2022)年度

川崎市立田島支援学校研究紀要

児童・生徒の生活を豊かにするための教育課程の編成に向けて

～段階表を視野に入れた連続性のある取り組み～



川崎市立田島支援学校

目 次

川崎市教育委員会

はじめに

I	川崎市立田島支援学校の概要	1
II	研究主題について	3
III	令和3年度の研究概要	5
IV	令和4年度の研究概要	9
V	近年の実績	19
VI	参考資料(教材集)	24
VII	参考文献・引用文献	29
VIII	研究同人	30

あいさつ

川崎市教育委員会研究推進校特別支援教育の研究報告会にあたりまして、ごあいさつを申し上げます。

田島支援学校・田島支援学校桜校におかれましては、特別支援教育の研究推進校として、児童生徒や学校、地域等の実態に応じて創意工夫を生かした特色ある教育を展開する中で、各教科等及び教育課程実施上の諸課題について研究を進めていただきましたことに心より感謝を申し上げます。

さて、学習指導要領では、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となる子どもたちに、どのような資質・能力を育成するかを学校教育目標等で明確にしながら、学校教育全体で資質・能力の三つの柱をバランスよく育成することが求められています。また、令和3年1月の中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」において、GIGAスクール構想により整備されたICT環境を最大限に活用する中で、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現を一体的に充実することが示されました。各学校におかれましては、学習指導要領やGIGAスクール構想を踏まえ、社会と目標を共有し、子どもたちや地域の実態等に応じた適切な教育課程の編成や実施、指導等の工夫、評価や改善に熱心に取り組まれていることと存じます。

また、本市におきましては、「かわさき教育プラン」において、キャリア在り方生き方教育を軸に、「生涯にわたって学び続け、自立した個人として生きていく力を一人一人が身に付けること」、そして「自立した個人が多様な価値観を認め合い、互いに支え合い、高め合う精神を持ち、生きがいのある社会を協働してつくりだしていくこと」を目指し、様々な教育施策を展開しています。各学校におかれましては、教育プランの実現に向けて、キャリア在り方生き方教育を要に様々な実践に取り組んでいただいております。

本日、田島支援学校・田島支援学校桜校から発信されました研究の成果を各学校の様々な教育活動の充実・発展に向けて、ご活用していただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、研究の推進にあたりまして、ご尽力いただきました学校長及び教職員の皆様、お力添えを賜りました関係の方々、並びに本日までご参会いただきました方々に厚くお礼を申し上げます。

令和4年12月
川崎市教育委員会

はじめに

本日は田島支援学校の研究報告会にご参加いただきまして、ありがとうございます。本校は令和3年度、4年度の2年間、川崎市教育委員会研究推進校として「特別支援教育」の分野で校内研究を行ってまいりました。

小学部から高等部まで全ての学部で、新しい学習指導要領の全面実施を受けて、本校が取り組んだ研究は、一言で言えば特別支援学校や特別支援学級に学ぶ児童生徒の、学びの地図の助けになるものを作ること、またその作成過程を通して、教師が連続性や系統性を大切にしたい学習活動を行う姿勢を学ぶことでした。

立派な研究報告というよりは、今後市内の多くの先生方に、参考として使っていただける研究報告としたい、という願いを持って取り組んできたものです。学校という現場はどうしても1年という単位が大きな意味や区切りを持っていますが、児童生徒の生活や学びは1年という単位で全て語れるというものではありません。特別支援学校、特別支援学級の幼児児童生徒はそれぞれ、15年間という学校生活の中で学びを重ねていくわけですから、教育の連続性や系統性がどれだけ大切なことか、このことは言うまでもなく明らかなどころです。

今回、ご提案する学習段階表は学習指導要領が示す各段階の内容について、田島支援学校での日々の実践から、より具体的な内容を考えて作成したものです。当然ながら、一つずつ階段を上がるようにクリアしていくという単純なものではなく、またそのことが目標ではありません。一つの段階の学びに何か月、何年と必要な児童生徒もいるかも知れません。この段階表をご覧になっていただく時には、当該児童生徒の現在の発達段階と実際の生活年齢とを十分に加味されて、どの段階を学ぶのか、を考えていただきたいと思えます。

また、この内容は決してこれで十分という完成したものではありません。市内の多くの先生方に使っていただく中で、ご意見をいただきながら、さらにより良いものに改良を重ねていく必要があるものです。そして、川崎市の特別支援教育の一つの財産になることを願ったものです。今後も皆さまのご助力をいただければ嬉しく思います。

最後になりますが、この2年間の研究を推進するにあたりまして、大変なご支援をいただきました、横浜国立大学教育学部の渡部匡隆先生、川崎市総合教育センターの指導主事の皆さま、ご協力ご指導をいただきました市内の先生方に深く感謝を申し上げます。

川崎市立田島支援学校長 稲葉 武

I 川崎市立田島支援学校の概要

(1) 基本情報

① 校舎一覧

田島校【知的教育部門高等部・肢体教育部門高等部】

桜校【知的教育部門小・中学部

肢体教育部門小・中学部、訪問部】

さくら分教室【知的教育部門小学部・肢体教育部門小学部】

② 児童生徒数(令和4年12月末時点)

校舎	学部	知的教育部門	肢体教育部門
田島校	高等部	138名	13名(1名)
桜校	中学部	31名	4名
	小学部	39名	22名(3名)
さくら分教室	小学部	14名	0名

() 内の数は訪問教育



田島校



桜校



さくら分教室

(2) 運営方針

① 教育理念

豊かなかかわり合いを通して育ちあう

～相互輔生(互いに優しく、互いに育ちあう)の関係を構築します～

私たちは児童生徒を学習面・行動面・対人関係面において、総合的に教育することが大切であると考えています。そのためには、児童・生徒と教職員の豊かなかかわりが必要となります。学校においては、子どもたち同士やかかわる大人が互いに優しく互いに育ちあう相互輔生の関係を構築することを教育の理念とします。この児童生徒と教員との関係を土台に、連続性ある学習内容の指導、行動面、対人関係面での成長を促す指導を実施します。

② 田島支援学校のめざす子ども(児童・生徒)像

～自分のことを大切に思う子～

- 自ら周りに働きかける子 (知育)
- 人を愛し、人から愛される子 (徳育)
- 豊かに活動する子 (体育)

③ 教育の視点

- 自分の気持ちが伝わり、分かり合える経験を通して、自分を大切にする力を育てる。
- 基本的な生活習慣、基礎的な知識・技能を身につけ、自立して生きる力を育てる。
- 人やもの・自然や社会とのかかわりを通して共に生きる力を育てる。
- 自ら考えを決定する経験を通して、豊かに生きる力を育てる。
- 自らの「からだ」と「感じる心」を大切にし、健やかに生きる力を育てる。

④ 各学部のめざす子ども像

めざす子ども像		教育の方向性
小学部	自ら興味関心のある事に取り組み、人に気持ちを伝えようとする子(知育)	児童の好きな活動、好きなことを認め、興味関心を広げ、支援を得ながら活動する楽しさを学ばせたい。そのためには、児童と教員とのかかわり合いを土台に、さまざまな活動を提供し、活動を深める。その過程において、子どもたちが自分から気持ちを表現しようとする力を培えるよう子どもの気持ちを理解し、共有していく。分教室にあっては、通常の学級在籍児童と自分の気持ちが伝わることの楽しさを味わわせたい。
	人とのかかわりを求め、自分なりに判断しようとする子(徳育)	
	自分の体を知り、のびのびと過ごす子(体育)	
中学部	自ら興味関心のある事に取り組み、人に自分なりの手段で気持ちを伝えようとする子(知育)	他の生徒および教職員と共感関係を構築し、自分の気持ちを表現すること、他の生徒の気持ちを感じることを学ばせたい。そのために、子ども同士で行える活動を提供し、かかわり合いを深め、気持ちを認め合う関係を作るよう、気持ちを代弁し、確かめていく。その中で、基本的なルールを守るなど、自分の行動を調整する力を養うよう、具体的な行動の在り方を示していく。
	人とのかかわりを求め、自他の気持ちを知り、判断しようとする子(徳育)	
	自分の体への理解を深め、意欲的に生活する子(体育)	
高等部	自ら興味関心の幅を広げ、相手に伝わるように発信する生徒(知育)	自分の気持ちを伝えるだけでなく、他の生徒の気持ちや周囲の状況を考え、判断し、行動できる力を育てたい。そのために、生徒と教職員が対話を通してかかわり合い、自分の気持ちと周囲の状況、社会的なルールや規範を意識し、適切な判断・行動ができるように促していく。
	人とのかかわりの中で、自他を認め、判断し、行動する生徒(徳育)	
	自分の心と体への理解を深め、主体的に活動する生徒(体育)	

Ⅱ 研究主題について

(1) 研究主題

児童・生徒の生活を豊かにするための教育課程の編成に向けて
～段階表を視野に入れた連続性のある取り組み～

(2) 研究主題の設定理由

平成29年4月、特別支援学校幼稚部教育要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（以下、新学習指導要領）が公示された。今回の改定で本校が着目したのは、①育成を目指す資質・能力を明確にするため、3つの柱（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）で各教科等の目標や内容を構造的に整理し充実を図ったこと②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図っていくこと③各学校におけるカリキュラム・マネジメントを推進していくことの3点である。

本校は、肢体教育部門（A課程）、知的教育部門（B課程）があり、小学部内でも特別支援学校学習指導要領小学部1段階から小学校学習指導要領に準ずる児童まで教育的ニーズは多様であり、個に応じた教科学習を担当教員が考えて授業を展開している。一つの単元でも学習段階に応じた複数の授業展開を組み立てる工夫や手立てが必要となる場合がある。本校では、教科用図書を活用して学習を進めることが困難な児童・生徒も在籍しているため取り扱う内容に合わせて教材を用意している。また、一人の教員が複数の教科の年間指導計画、学習内容や手立てを作成しているケースも少なくない。つまり、一人の教員が複数の教科を担当し、それぞれの教科の各項目を連続性（子どもたちの多様な教育的ニーズに対応できる学びを常に確保していくこと）がある単元構成にする必要があるということになる。そうでない場合は、児童生徒にとって学習の積み上げが困難となる。そこで、学習指導要領が示す、各教科の内容項目に応じた具体的な指導内容を段階（小1段階～高2段階）ごとにまとめた表（以下、学習段階表）を作成していくことで、新学習指導要領に沿った系統的な指導を進めていくことができると考えた。また、学習段階表により学習のステップアップが可視化されることで児童・生徒にとって学習の積み上げがし易

く、教員にとっても学習の成果や課題が次の学年に円滑に引き継がれるようになることを考えた。

本校の教育理念は「豊かなかかわり合いを通して育ち合う」～相互輔生～（互いに優しく、互いに育ちあう関係を構築する）であり、連続性のある学習内容を指導すること、児童・生徒、教職員が豊かなかかわり合いの中で行動面、対人関係面での成長を促す指導を目指している。また、子どもたちが予測困難な未来社会の中で自分の人生に主体的に関わっていくために「自分で考え、選択し、行動する力」が必要だと考えている。桜校、田島校、さくら分教室がそれぞれ連続性のある系統的な教育課程の編成を試み、児童・生徒の実態に応じた授業改善を試みることによって成長を促し、教員としての専門性を向上させられると考え研究主題を設定した。

（３）２年間の研究計画

令和３年度【新学習指導要領の理解を深める】

学習段階表の完成に向けて、各教科のねらいに基づいた授業を行い学習内容の蓄積を行っていく。学習評価の方法等を毎月の月例研究協議会で検討し、授業改善（指導と評価の一体化）に繋げていく。

- 1 学習段階表の作成（学習内容の蓄積）、活用方法の検討
- 2 各授業（単元）を教科の３つの柱での整理及び新学習指導要領に基づいた指導案（細案・略案）の改良
- 3 毎月の授業研究を通しての授業改善（各教科の資質・能力の観点を踏まえて実施をする）



令和４年度【生活を豊かにする連続性のある教科学習の実践】

授業計画を作成する際、学習段階表を活用して学年間の学びのつながり（連続性）を意識した授業計画を作成する。引き続き学習内容の蓄積を行う。

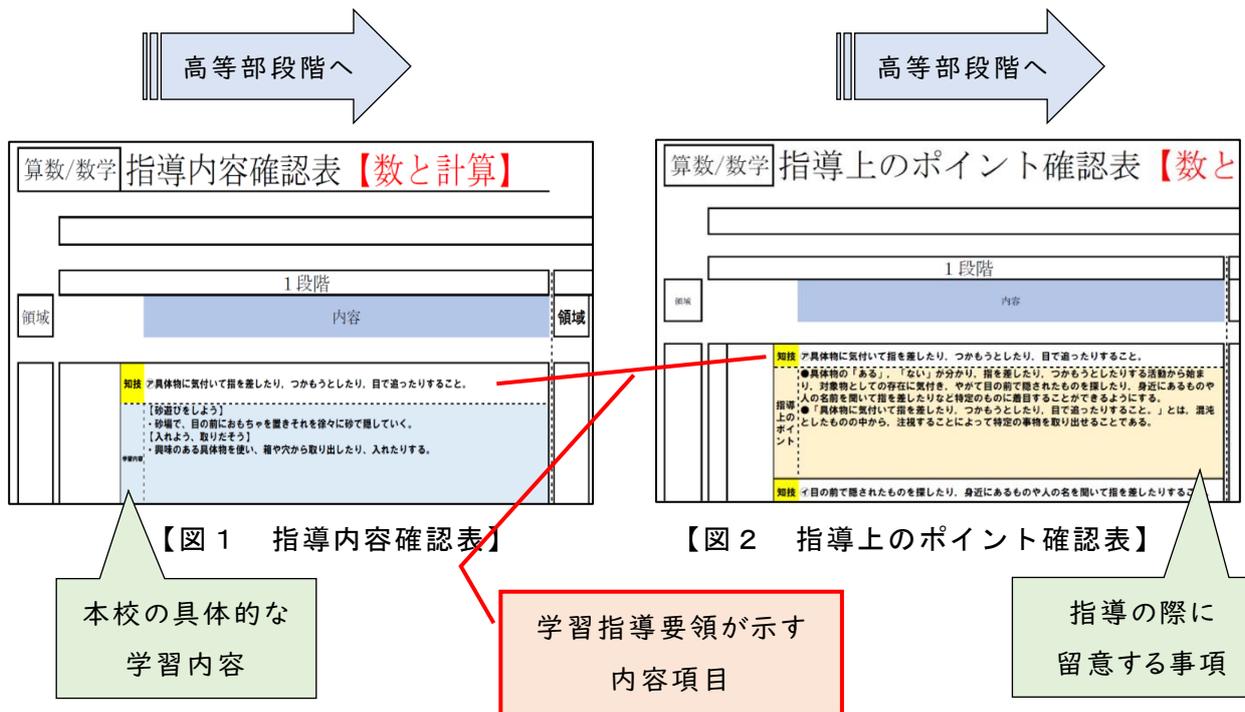
- 1 学習段階表のバージョンアップ及び教材集の作成
- 2 学部内で連続性のある授業計画の作成
- 3 授業改善によって「どう学ぶか」「何を身に付けたか」を検証

Ⅲ 令和3年度の研究概要

(1) 学習段階表とは

本校は、学校教育目標をもとに児童・生徒がどんな力を身に付けてほしいかを各教員が検討し、授業内容を設定していた。そこには、教員の願いは反映されていたが連続性の確認は不十分だった。そこで日々の授業で実施した内容を学習指導略案から田島版学習段階表に落とし込んだ。学習段階表の形式は、新学習指導要領の小学部1段階から高等部2段階を横並びの表(図1・図2)にすることで前後の段階が容易にわかるようにした。学習段階表の内容を充実させていくことで個別の指導計画、各教科の年間指導計画や指導案作成時に活用できると考えた。

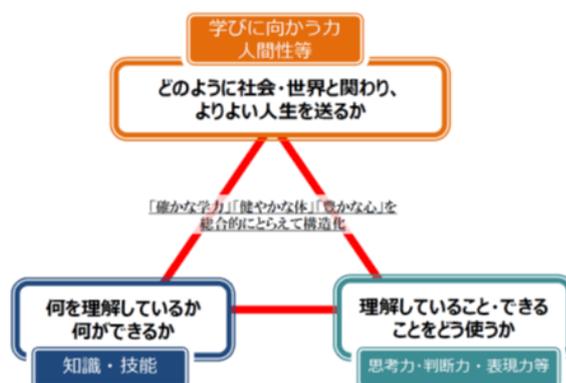
学習段階表は2つの要素で構成されている。指導内容確認表(図1)は、各教科の内容項目に対応する具体的な活動例であり、児童・生徒が実際に取り組む内容が記載されている。題材を選ぶ際には学習指導要領の内容に加えて、各学部 に在籍している児童・生徒の発達段階や実生活を踏まえて設定している。指導上のポイント確認表(図2)は、各教科の内容項目を指導する際に留意する点が記載されている。今後も授業を実施する上で、学習段階表の学習内容と実際の授業を比較、検証することで、より精度の高いものを目指していく。



(2) 学習段階表の作成に向けた取組

① 各授業（単元）を教科の3つの柱での整理(学習指導案の工夫)

まず、教職員が教科的な知識や技能の理解・習得だけでなく、理解していることを、どう使って自分で判断し、自分から社会に向かって関わる力を育むかという新学習指導要領の理念を意識しながら児童・生徒の学習指導にあたるのが重要であると考えた。そこで単元を構成する際に児童・生徒の実態を踏まえて学習段階を検討し、新学習指導要領の各教科が示す内容から授業の計画を作成した。更に、「知識及び技能＝何を理解しているか、何ができるか」「思考力、判断力、表現力等＝理解していること・できることをどう使うか」「学びに向かう力、人間性等＝どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」の3つの観点(図3)で授業を捉え、研究主題にもある「児童・生徒の生活



【図3 育成すべき資質・能力の三つの柱】

生活を豊かにする」ための学習を展開することを試みた。また、学習指導案や日々の授業の中で作成する指導略案の書式を見直した。取り扱っている内容項目を明記し、学習グループごとに週に一度行われる授業検討の場「単元打ち合わせ会」で共有するようになった。事前にねらいを教員間で共有することで児童・生徒の実態に応じた手立てを検討することができた。

② 授業を検証して

授業を評価し、改善するための月例協議会にも取り組んだ。毎月1回、各月の担当授業者が授業の様子をビデオで撮影し、それをもとに月例協議会(桜校:国語、算数・数学/田島校:国語、数学、社会、体育/さくら分教室:図工、音楽、体育)(図4)を行った。平成31年1月21日付中央教育審議の「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」によると観点別学習状況の評価に取り組むことで「各教科等での学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、ど



【図4 月例協議会の様子】

の観点に課題が認められるかを明らかにすることにより、具体的な学習や指導の改善に生かす」とされている。また、「特別支援学校においても、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころとして、評価規準を作成することが必要である」と示されている。そこで月例研究協議会でもPDCAサイクルの一端として授業を評価し改善するため、指導略案(図5)に評価規準を「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料(文部科学省)」を参考にして設定することとした。協議会では、対象児童・生徒の実態に対して取り扱う新学習指導要領の内容、評価規準は適切であるかや支援の手立て(教材や言葉かけのタイミングなど)、次の段階に進むための課題や授業者自身の困り感などを協議した。これらの過程を通して、指導内容を田島支援学校版学習段階表に盛り込んだ。

4 単元の目標及び評価規準

	知識及び技能 【高等部2段階/C/A】	思考・判断・表現等 【高等部2段階/C/I】	学びに向かう力・人間性等 【高等部2段階/C/U】
学習内容表	・水溶液の性質や働きについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けようとする。	・水溶液の性質や働きについて調べる中で、主にそれらの仕組みや性質、規則性及び働きについて、より妥当な考え方をくりだす力を養う。	・水溶液の性質や働きについて進んで調べ、学んだことを生活に活かそうとする態度を養う。
評価規準	・観察や実験に必要な用具について理解をしている。 ・実験に関する基本的な操作や技能を身に付けている。	・汚れが落ちる様子に気付いて意見を述べる様子が見られる。 ・複数の洗剤を比較して、予想や仮説を立てようとしている。	・汚れが落ちる実験に進んで取り組み、意欲的に学ぼうとしている。

【図5 学習指導案の単元目標及び評価規準(例:理科の場合)】

(3) 令和3年度の成果

① 学習段階表(国語、算数・数学、生活、社会)の仮完成

研究概要でも述べたように1年間の授業実践を田島支援学校版の学習段階表に落とし込んだ。新学習指導要領を意識した授業実践に取り組んでいく中で国語、算数・数学、社会、生活科の学習段階表を仮完成させることができた。今後も内容を充実させていくことに加え、全教員が有効に使えるようにしていく必要がある。令和4年度は、各教科の年間指導計画、個別の指導計画の目標の作成時に活用していく。授業計画を立てる際、学習段階表を活用することで各教科、各段階の内容を意識した授業を展開することができる。また、学習段階表があることでステップが組みやすくなり児童・生徒の幅広い実態に応じた授業を作るのが容易になり、児童・生徒の学習の積み上げがしやすく、教員の業務改善にもつながると考える。

② 学習指導要領を意識した授業づくり

1年間の取組の中で、各教員が新学習指導要領の内容をもとに授業を検討するようになってきた。また、学習指導略案に教科のねらいを3つの観点で明記し、単元打ち合わせ会で事前に共有することで、T2及びT3の教員もねらいを意識しながら授業に取り組むことができ児童・生徒にとって適切なタイミングで必要な支援を行うことができた。

毎月の授業検討では、①授業計画【PLAN】を作成する②授業実践【DO】③学習状況を評価【CHECK】④評価結果を改善に生かす【ACTION】という指導から評価までのPDCAサイクルを組織的かつ計画的に実施することができた。評価規準を指導案に明記する取組は、研究協議を行った教科(桜校:国語、算数・数学/田島校:国語、算数・数学、社会、体育/分教室:図工、体育、音楽)での実施となったが、その他の教科でも評価規準を設定し共有したうえで授業を実践することでより良い授業評価システムの構築につながると考える。

③ 令和3年度の課題

1. 学習段階表の改良

活用方法の明確化、表の見やすさの向上

2. 連続性のある授業計画

年間指導計画を各学年で作成しているため、学年間のつながりが見えていない

3. 授業評価システムの構築

月例協議会で評価した内容をどのように次単元や次年度に生かしてしていくか

IV 令和4年度の研究概要

(1) PDCA サイクルの視点と学習段階表及び教材集の作成

令和3年度の教職員アンケートから、授業の評価が次単元に生かされていなくてあげられた。学習段階表に関しては、個別の指導計画の作成時や授業作りの際に活用されているが、表の形式（見やすさ）に課題があることが分かった。また、記載されている内容の検証と既存の教科（生活科、国語、算数・数学科、理科、社会科）以外の作成も必要だと考えた。そこで令和4年度は、前年の月例協議会を継続して行い、授業評価システムの向上及び学習段階表の見直しを行った。

① 月例協議会の充実化

評価システムを中心として実施している月例協議会では、従来の国語科、算数・数学科の分科会に加えて、音楽科、図画工作・美術科、保健体育科の分科会を新たに設置した。月例協議会をより充実したものにするため従来の協議方法に加えて2つの工夫を行った。1つ目は授業で活用した教材をシートにまとめて提案、検討を行った。集まった教材を教材集として残していくことで学習段階表と合わせて授業作りの参考になると考えた。2つ目は学びのつながりである。協議を行う際、対象授業のみではなく単元全体を通して検討を行うようにした。また、協議グループを編成する際、担当学年に偏りが出ないようにした。そのことで他学年とのつながりについて考える場となっている。以上のような実践の中で児童・生徒の学習状況を評価し、授業改善を図ると同時に協議の結果を学習段階表に反映させていった。

② 学習段階表の活用、新設及び形式の改良

学習段階表を活用して授業計画を立て、すべての授業で学習段階表の取り扱い内容を記載した指導略案を作成し、単元打合わせ会で事前にねらいや支援方法などを共有するようにした。また、単元打ち合わせ会では、終了した単元の振り返りも行い、改善点の洗い出しを行った。ここで挙げられた改善点は必要に応じて学習段階表に反映し、次単元や次年度に生かすことで学習評価としての位置づけも担った。

「①月例協議会の充実化」でも述べたように、音楽科、図画工作・美術科、保健体育科の分科会を新設し、各教科の授業検討を行った。協議

で結論づけられた今後の方向性を学習段階表に反映させていった。また、国語科、算数・数学科に関しても協議結果を既存のものに反映させていくことで学習段階表のバージョンアップを行った。学習段階表の形式に関しては、各教科の領域ごとにページをわけて、検索しやすくした。また、データとしての活用に加えて印刷（A3）して活用できるように表の形式を整えた（11、12ページ）。

③ 教材の蓄積

新学習指導要領「指導計画の作成等に当たっての配慮事項」によると「各教科等の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の実態を的確に把握して進めること」とされている。その実現のために、「指導方法や指導体制の工夫改善により個に応じた指導の充実を図ることが重要であり、その際に教材・教具の活用を図ること」とされている。そこで本校でも授業で使用する教材の工夫について検討を行った。月例協議会において授業者は、実際の授業で使用した教材をシート（図6）にまとめて授業映像とともに提案をするようにした。協議参加者から教材のデザインや提示方法に関する意見を集めて教材の改善に取り組んだ。協議の前後で教材が改善されることで、より実態に合った教材で学習活動に取り組むことができると考えている。

月例協議会で検討された内容は学習段階表と教材集に反映されている。授業計画を作成する際に学習段階表で学習内容を確認すると同時に教材集で実際に使用した教材を確認することができる。今後は学習段階表に加えて教材集の蓄積も続けていくことでより充実したものしていきたい。そして本校だけでなく川崎市内の各学校においても活用できるように発信していきたい。

知識及び技能

(1)

項目	小学部			項目	中学部			項目	高等学校	
	1段階 内容	2段階 内容	3段階 内容		1段階 内容	2段階 内容	3段階 内容		1段階 内容	2段階 内容
言葉の働き	(7) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。	(7) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。	(7) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付く。	言葉の働き	(7) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、物事の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。	(7) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	言葉の働き	(7) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	(7) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手のつながりをつくる働きがあることに気付く。	
学習内容	【話し掛けに慣れる】 - 教員の話しかけや呼名に応じる。また、音声言語やスイッチ教材など言葉を使うことで相手の反応に変化があることに気づく。 【なまえをおぼえよう】 - 見本の文字を見ながら並び替えをし、隠された文字の並び替えをし、マジックペンで名前などの運筆をなぞる。 【どこにある?】 - 教員の音声言語を聞いて、場所の写真や色カードを選び、事ができる。	【なんぞ伝える?】 - 親しみやすい場面を映像や写真を取り上げ、場面に合った言葉(●●欲しい・怒っている・楽しい・やりたくないなど)や、日常的に使う言葉を発表する。 【アニメや本を説明しよう】 - 実際の場面を想定してロールプレイを行う。 - 終了課題(おたのしみ)の中でやりたいことを選び自然と伝える学習をする。	【状況や伝え合おう】 - 楽しかった経験等の動画を視聴し、教師の問いかけに対し、伝えたい事柄を考え表現する。 【アニメや本を説明しよう】 - アニメや絵本(読み聞かせ)を見て(はじめ・なか・おわり)簡単に内容を伝える。	言葉の働き	【作品をしようか!】 - 自分が作った作品を作る過程で経験した事実や自分の気持ち、意見などを相手に伝えることを意識して伝えたい事柄を順序立てて発表する。 - 自分の伝えたいことを整理して伝え、相手に共感してもらったり認めてもらうことで伝えることのよさを実感できるようにする。 【ことばの学習】 - 写真やイラストで身近なものの名前や動作の言葉や学習する。	【みんなにつなよう】 - 学校の集会(生徒会、クラブ集会など)で発表をする。 - 伝えるときには、「伝えたい事の明確化」「伝える順序」「伝え方」「分かりやすい伝え工夫」が大切であることをポイントとして学習を進める。	【聞く態度「話す態度」】 - 「私の名前を漢字で書くよ」を発表 - 「働く人にインタビューしよう」 - 校長(教頭)、養護教諭、事務員、用務員に仕事内容、大変なこと、仕事の手、みんなに協力してほしいこと、などについてインタビューする。	【敬語で話そう】 - ワークシート(前回の面接を再現「生徒と先生」のあと)生徒と生徒で実践をする 【チクチク言葉とフワフワ言葉】 - 同じ内容の会話をチクチク言葉とフワフワ言葉で表現する。相手の会話をどのように受け取ったか話し合う。		
話し言葉と書き言葉			(4) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。	話し言葉と書き言葉	(4) 発音や声の大きさに気を付けて話すこと。	(4) 発音や発音に気を付けて話し、声の大きさを調節したりして話すこと。	話し言葉と書き言葉	(4) 相手の目を見て話したり聞いたりするともに、間の取り方などに注意して話すこと。 【スピーチ対決】 - 「アン・シマンのマーチ」の歌詞を相手に訴えかけるように朗読する。 - 「わすれないで夢を…」などの詩に相手に伝えたい部分に強調をつけて話したり、相手の目を見て伝えたりするとより気持ちよく伝わりやすいことを伝える。	(4) 話し言葉と書き言葉の違いがあることに気付くこと。 【伝言ゲーム】 - 紙に書かれた文字を写し取って伝言するチームと、耳で聞いた文章を口頭で伝言するチームで対決する。 - 伝言終了の時間や伝言内容の適切さを比較し、話し言葉と書き言葉の役割やメリット・デメリットを考え、どの場面で使い分けられるかを考える。	
学習内容			【自分の夢を話そう】 - 挨拶や自己紹介において自分の映像を見て振り返ったり、児童同士で評価し合う活動を取り入れたりすること。	学習内容	【お互いの夢について発表する】 - 適切な声の大きさを理解することが難しい生徒には、声の大きさを図や数値化し、声の大きさについて具体的に伝える。	【夢を話そう】 - 漢字探しプリント - 自己紹介プリント(宿題)を合格・残念チームに分ける - 合格グループはチーム内発表(声の大きさと前回の注意点を生かす) - 残念チームは設問の意味など分からないことを教員と話す	学習内容	【伝言ゲーム】 - 「わすれないで夢を…」などの詩に相手に伝えたい部分に強調をつけて話したり、相手の目を見て伝えたりするとより気持ちよく伝わりやすいことを伝える。		
言葉		(4) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	(7) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	言葉	(7) 長音、拗音、促音、撥音の正しい読み方や書き方を知ること。	(7) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	言葉	(7) 漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解し、文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識して打つこと。	(7) 文や文章の中で漢字と仮名を使い分けて書くこと。	
学習内容	【ひらがなをさがそう】 - 自分や友だちの名前、図鑑や絵本に出てくる物や生き物の名前を取り上げ、教師や友達と一緒に声に出して読み、平仮名の持つ音節文字としての特徴や、濁音と半濁音の違い、文字の形の特徴などに気づく。また、音節に気づくためにひらがなブロックを使い同じように単語を構成する。 【教科の名前の並び替えしよう】 - イラストと文字を見て名称を答える。 - 見本の文字を見ながら並び替えをする。 - 一文字隔れた文字の並び替えをする。 - 一文字ずつ声に出して読んで、ひらがなの持つ音節文字としての特徴や文字の形の特徴などに気付く。	【小さい文字と伸びる音】 - 促音(っ)・トランプ、ラッパ)長音(けいさつ、ケーキ、王さま)を取り扱う。ひらがなを読んで対応するイラストを選ぶ。イラストを見て対応するひらがなカードを選ぶ。 【参考読み物】 - てんしやほうとう - 小さいつが浦えた日 【カタカナの読み方を知ろう】 - ひらがなの下にカタカナを貼り付けて、カタカナ(ア・カ行)の読み方を理解する。 - 分からない部分はひらがな、カタカナ50音表で確認するようにする。声に出して読み、読み方の確認を行う。	【作ってみよう(ペットボトルのかざぐるま)】 - 生活に必要な身近な物の使用法や簡単な作業工程の説明書を読んで大体の使い方や作り方を捉える。 - 説明書には「ペットボトル」「カッター」「ペンチ」「ハンガー」など 長音、拗音、促音、撥音などが含まれる言葉を入れる。	学習内容	【お礼の手紙を書こう】 - 人との関わりの一つとして手紙があることや手紙がもつ良さについて気付けるようにする。 - 受け取る相手のことを思いやりながら書くために文章表記・間違った書き方・長音、拗音、撥音などの使い方を注意しながら書く。 - 事前に関連しやすい長音、拗音、促音、撥音などについて例などを提示し、確認をする。	【漢字を使って文章を書こう】 - ひらがなの文章を漢字や句読点を使った文章に書き換える。 例) ははは公園えんいく。 ①母は、公園に行く。 ②母は、講演に行く。 - 句読点を使うと文章が読みやすいことや、漢字によって内容の情報が明確になることを感じ取る。	【手紙を書こう】 - 相手に読みやすい文章を意識して、句読点や漢字を使った文章を手紙を書く。			
言葉	(4) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	(7) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	(4) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	言葉	(4) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	(4) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	言葉	(4) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。	(4) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすること。	
学習内容	【言葉に触れよう】 - 自分が授業で取り組んだことや好きな物をジェスチャー、写真やイラストから選ぶ。提示する際、言葉の音に触れるために名称を声に出して伝える。自由な表現を認め、言葉での表現の素地を養う。	【これはなににならしている?】 - イラストや写真を見て物の名前(名詞)やなにをしているか(動作用語)の質問に答える。 - 楽しかった経験などから、それぞれの場面で使ったものとその名前を思い浮かべたり、思い浮かべたものを絵や実物などと一緒に一致させたりすることを通して、いろいろな言葉の扱えるようになる。 【ボールどこかな?】 - 教員と一緒に右手を動かし、動かし方向きとその名称を確認する。	【言葉の意味や仲間言葉】 - 一つの言葉に対する同義語、類義語、対義語を出し合う。 - 動物の名前や果物の名前などを出し合い言葉のグループを作る。	学習内容	【言葉の意味や仲間言葉】 - 複数のカードの中から相手に伝えるカードを1枚決める。 - そのカードの情報を1単語で表す。 - 情報を聞いても相手かカードを選べない場合は、もう1単語情報を追加する(相手がカードを選ばずに1つずつ情報を追加する)。 例) ピンクのカエル: 「ピンク」「いきもの」「やわらかい」と「ぶ」「鳴く」「雨が好き」など	【カード当てゲーム】 - 複数のカードの中から相手に伝えるカードを1枚決める。 - そのカードの情報を1単語で表す。 - 情報を聞いても相手かカードを選べない場合は、もう1単語情報を追加する(相手がカードを選ばずに1つずつ情報を追加する)。 例) ピンクのカエル: 「ピンク」「いきもの」「やわらかい」と「ぶ」「鳴く」「雨が好き」など	【意見を書こう】 - テーマに対し、「私は…と思います。なぜならば…」などの文章で発表したり、相手の意見に対して「…だから賛成です。」「…なので、私は…と考えます。」などの自分の意見を述べよう。			
文や文章			(4) 文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知る。	文や文章	(4) 主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	(4) 修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	文や文章	(4) 接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	(4) 文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。	
学習内容			【文をつなげよう】 - 身近な事柄を表す絵や写真を見て次の学習を行う。 ①文節ごとに区切ったカードを並び替えて文を作ったり、完成した文を見本にして書いたりする。 ②助詞を抜いた文を読んで当てはまる助詞を考え文を完成させる。 ③主語や述語など、一部が抜けた文に入る語句を考え文を完成させる。 ④文を書き、相互に発表し合う。その際、書いた文を読み、間違いがあれば正せるようにする。	学習内容	【接続詞でつなげよう】 - 「何がどうなる」「だれがどうする」「何はどんなだ」など例を提示して、語句と語句のつながりや主語と述語の関係を考えながら文を作る。 - 伝える順序や伝え方を工夫して相手に伝わりやすいように指導する。 - 主語や述語のまとまりが意識できるようにそれぞれの言葉のまとまりごとにカード書きで並べたりして確認したりする。	【接続詞でつなげよう】 - 地域の人や下級生に学校の紹介をする。 - 話す内容を考えるときには、理由や事例を付け加えながら伝える。 - 順序や伝え方を工夫して相手に伝わりやすいように指導する。 - この活動を通して、修飾と被修飾の関係や考えた理由などの説明することを意識できるようにする。	【カード当てゲーム】 - 複数のカードの中から相手に伝えるカードを1枚決める。 - そのカードの情報を1単語で表す。 - 情報を聞いても相手かカードを選べない場合は、もう1単語情報を追加する(相手がカードを選ばずに1つずつ情報を追加する)。 例) ピンクのカエル: 「ピンク」「いきもの」「やわらかい」と「ぶ」「鳴く」「雨が好き」など	【文と文との接続】 - 起承転結や接続詞を意識して、4場面の絵を並び替え文章をつくる。 例) 3段アイスを持った人: アイスが落ちる ⇒ アイスを慎重に運んだ「しかし」落ちてしまった。		
言葉遣い			(7) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	言葉遣い	(7) 敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	(7) 敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	言葉遣い	(7) 日常よく使われる敬語を理解し使うこと。	(7) 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。	
学習内容			【敬語】 - 敬語カルタを作成する(お題を敬語に直したものを紙に書く) - 敬体を読み、敬体に直した札をとる - 敬体を読み、常体の札をとる - コンビニの店員と客の役に分かれ、敬語を使用して会話を進行 【電話を利用しよう】 - 文章を読んで丁寧な言い方に直す - 丁寧な言葉を2グループに分かれて発表しあう - どんな言葉が見つかったか発表し、聞いている側はメモをする	学習内容	【敬語】 - 相手に応じた言葉遣いの学習 - 校外学習で行った先でお礼を言う。 【言葉遣いの違い】 - お礼状を書く - 日常の場面で教員と友達との言葉遣いの違いを学ぶ。 - 敬語を意識して会話を進行 【電話を利用しよう】 - 文章を読んで丁寧な言い方に直す - 丁寧な言葉を2グループに分かれて発表しあう - どんな言葉が見つかったか発表し、聞いている側はメモをする	【敬語】 - 相手の目を見て話したり聞いたりするともに、間の取り方などに注意して話すこと。 【スピーチ対決】 - 「アン・シマンのマーチ」の歌詞を相手に訴えかけるように朗読する。 - 「わすれないで夢を…」などの詩に相手に伝えたい部分に強調をつけて話したり、相手の目を見て伝えたりするとより気持ちよく伝わりやすいことを伝える。	学習内容	【敬語】 - テレビ番組の出演者の会話を聞き、どんな敬語を話しているか知る - 敬語の種類について知る - 丁寧語、尊敬語、謙譲語の使い方を知る - 各自で例文を作成する - イラストの場面に合った丁寧語の使い方 「お」「ご」をつけた言葉遣い - 場面ごとに相応しい敬語を話すことができるために、電話での会話や各場面を想定したロールプレイを行う - 敬語一覧表を見て丁寧語、尊敬語、謙譲語の違いについて確認する。一覧表を見ながらワークシートに取り組み。 【電話で話そう】 - NHK for school 「お伝と伝じろう〜目上の人と話すとき」を見ながらプリントを記入する - 敬語の種類を知り、正しい文章を考える - プリントを使って敬語の種類と使い方を知る - 電話での敬語の使い方を知る - 敬語カルタをする。丁寧語・尊敬語・謙譲語の語句が書かれたカードを机に広げ、様々な同士のイラストの描かれたカードを一人ずつ引く、イラストに合った敬語のかるたを取る。		
音読			(4) 正しい姿勢で音読すること。	音読	(4) 語のまとまりに気を付けて音読すること。	(4) 内容の大体を意識しながら音読すること。	音読	(4) 文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	(4) 文章を音読したり、朗読したりすること。	
学習内容			【音読しよう】 - 音読姿勢について、文の切れ目を意識して読む事ができるように映像を見て確認する。 ○姿勢・腹式呼吸(腹部に手を当ててへこませるように押しながら声を出す)、声の出しやすい姿勢 ○声…明瞭さ、声量(2mほど前の手のひらをかざしてそれに声をぶつけるように読む) ○読み方・聞きやすいように文の切れ目を意識する、音の特徴(しどしど、しくしく)に関心を持って読む	学習内容	【わらしべ長者】国語☆☆☆☆ P74より - 行動を表す文や「さらに、さらに」など繰り返しの言葉などをひとまとまりの語として意識して読めるようにする。 - 登場人物の行動や様子などを表す言葉や文、会話文から「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」について話し合い登場人物の気持ちの変化などを大筋で捉えられるようにする。	【最後のうさぎ】国語☆☆☆☆ P32より - 最初に教科書に描かれている絵を見て、どのような様子か想像しながら範読を聞き、そのあとに音読をする。 - 登場人物の行動や様子などを表す言葉や文、会話文から「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」について話し合い登場人物の気持ちの変化などを大筋で捉えられるようにする。	【朗読】 - 短い詩を朗読する。(朗読作品例:『声に出して読みたい日本語 斎藤孝』など) - 聞き手は、朗読者の声の大きさ、抑揚、間のとり方についての評価を行う。	【朗読】 - 文章を音読する。(朗読作品例: 一般社団法人 青空朗読(Web検索)など) - 聞き手は、朗読者の声の大きさ、抑揚、間のとり方についての評価を行う。		

		小学部			中学部			高等部							
		1段階	2段階		1段階	2段階		1段階	2段階						
		内容	内容		内容	内容		内容	内容						
A 数量の基礎	A 具体物	知技	⑦具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。	知技	⑦ものともとを対応させることによって、もの個数を比べ、同等・多少が分かること。	知技	⑦1000までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり、分類して数えたりすること。	知技	⑦万の単位を知ること。	知技	⑦整数は、観点を決めることと偶数と奇数に類別されることを理解すること。				
		学習内容	【砂遊びをしよう】 ・砂場で、目の前におもちゃを置きそれを徐々に砂で隠していく。 【入れよう、取りだそう】 ・興味のある具体物を使い、箱や穴から取り出したり、入れたりする。	学習内容	【比べてみよう】 ・10までの数で「みんなに一つずつ配る」「コップ一つずつ入れる」など、配る活動を通して1対1の関係を学ぶ。対応させる中でコップの方が多い、少ないなど表現する。	学習内容	【数えよう】 ・1000まで具体物を数えてみて、数えることが難しいことを知る。 【まとまりをつくらう】 ・10や20などのまとまりで数を表示。 【全部でいくつ】 ・イラストで示された、100ずつまとまりのあるストローとバラのストローを合わせて数える。	学習内容	【どちらが大きいの？】 ・4位数までの十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について、理解すること。 【1000より小さい数/大きい数】 ・1000を基準にした数直線を使って、1000より小さい数や大きい数を表示する。	学習内容	【万の単位】 ・26000, 26732, 5760000など千万までの数を読む。 ・百七十一万五千七百七十七など漢字で表された万の単位の数を漢字で書く。	学習内容	【割り切れるかな】 ・トランプの山札から1枚ひき、出た整数の約数を割り算を使って探す。(例 1 2) ・1...2...3...4...6...12 【掛け算で倍数を探そう(倍数)】 ・トランプの山札から2枚ひき、出た整数を1〜10まで整数倍していく。 ・3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27, 30 ・8, 16, 24, 32, 40, 48, 56, 64, 72, 80 ・共通する倍数(24)を探す。(公倍数)		
		知技	⑧目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。	知技	⑧もの集まりと対応して、数詞が分かること。	知技	⑧3位数の表し方について理解すること。	知技	⑧10倍, 100倍, 1/10の大きさの数及びその表し方について知ること。	知技	⑧10倍, 100倍, 1000倍, 1/10の大きさの数及びその表し方の理解を深めること。	知技	⑧約数, 倍数について理解すること。		
		学習内容	【トンネルで遊ぼう】 ・おもちゃがトンネルに入り、出てくる様子を見せ、探そうとする。 【コップの中身は？】 ・興味のある具体物を目の前でコップで隠し、探そうとする。慣れてきたら具体物の数はそのままコップを増やす。 【返事をしてみよう】 ・自分の写真に気づき、指をさしたり、呼名に返事をしたりする。	学習内容	【数えてみよう】 ・興味がある物の数(イラストの花, 積み木)を自分で操作したり、指さしたりして「いち」から「じゅう」までリズムよく順番に数唱する。	学習内容	【位で表そう】 ・3位数までの数を、一の位, 十の位, 百の位で表す。	学習内容	【10倍と100倍, 1/10を知ろう】 ・1円を10枚集めて10円, 10円を10枚集めたら100円, 100円を10枚減らしたら10円など、硬貨を使用して表す。数を10倍すると位が一つずつ上がり、元の数の右に0を一つつけた数になることを知る。	学習内容	【大きな数】 ・位取りについて確認する(10倍, 100倍...) ・10や100で割ったときの位関係 ・0をつけてくり上がる数, 5×10=50, 3×100=300, 2×1000=2000などの例から理解する。 ・10×1/10=1, 200×1/10=20例から理解する。 ・10円玉が10枚(10倍)で100円, 10円玉が100枚で(100倍)で1000円, 1円玉10枚の1/10は1円(1枚)など金銭で数の大きさを表し方を理解する。	学習内容	【割り切れる数を探そう(約数)】 ・トランプの山札から1枚ひき、出た整数の約数を割り算を使って探す。(例 1 2) ・1...2...3...4...6...12 【掛け算で倍数を探そう(倍数)】 ・トランプの山札から2枚ひき、出た整数を1〜10まで整数倍していく。 ・3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27, 30 ・8, 16, 24, 32, 40, 48, 56, 64, 72, 80 ・共通する倍数(24)を探す。(公倍数)		
		学習内容	【日常生活場面など】 ・友達の写真に気づき、指をさしたり、呼名で友達の方を向いたりする。 ・自分の好きな物に注目し手を伸ばす。	学習内容	【数学をしよう】 ・数字カードの分だけ用意された具体物を数えて数字を理解する。慣れてきたら数字カードの分だけ取る。 ・場にある物の数を数唱し、対応する数字を選び対応させる。 【買物をしてよう】 ・個数表記がついた果物カードを使う。3個のリンゴと1個のリンゴのイラストカードを提示し、「3個はどっち?」の問いに答えて買物を進める。(数詞, 具体物, 数字を一致させる)	学習内容	【どちらが大きいの?】 ・3位数までの数を比較し、不等号(<, >)を使って表す。(例 629<645)	学習内容	【どちらが大きいの?】 ・4位数までの数を比較し、不等号(<, >)を使って表す。(例 7629<7645)	学習内容	【人口や金額の単位】 ・十進位取り記数法で、億, 兆の単位を知り人口や金額などの大きな数を読む。	学習内容	【整数を分類する方法を考えよう】 ・整数のグループを作り、トランプの山札から1枚ずつ引いていき、乗法や除法を使って出た整数をどのように分類していくかを考える。		
	学習内容	⑨対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、錯覚を協応させながら捉えること。	知技	⑨もの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	知技	⑨数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。	知技	⑨数を千や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解を深めること。	知技	⑨億, 兆の単位について知り、十進位取り記数法について理解を深めること。	知技	⑨乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりするとともに、日常生活に生かすこと。			
	知技	⑩対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、錯覚を協応させながら捉えること。	知技	⑩もの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	知技	⑩100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。	知技	⑩数を千や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。	知技	⑩億, 兆の単位について知り、十進位取り記数法について理解を深めること。	知技	⑩乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりするとともに、日常生活に生かすこと。			
	知技	⑪対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、錯覚を協応させながら捉えること。	知技	⑪もの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	知技	⑪100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。	知技	⑪数を千や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。	知技	⑪億, 兆の単位について知り、十進位取り記数法について理解を深めること。	知技	⑪乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりするとともに、日常生活に生かすこと。			
	知技	⑫対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、錯覚を協応させながら捉えること。	知技	⑫もの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	知技	⑫100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。	知技	⑫数を千や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。	知技	⑫億, 兆の単位について知り、十進位取り記数法について理解を深めること。	知技	⑫乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりするとともに、日常生活に生かすこと。			
	知技	⑬対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、錯覚を協応させながら捉えること。	知技	⑬もの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	知技	⑬100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。	知技	⑬数を千や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。	知技	⑬億, 兆の単位について知り、十進位取り記数法について理解を深めること。	知技	⑬乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりするとともに、日常生活に生かすこと。			
B 数と計算	イ ものともとを対応させること	知技	⑭ものともとを対応させて配ること。	知技	⑭個数を正しく数えたり書き表したりすること。	知技	⑭3位数の数系列, 順序, 大小について、数直線上の目盛りを読んで理解したり、数を表示したりすること。	知技	⑭数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。	知技	⑭数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えるときに、それらを日常生活に生かすこと。	知技	⑭整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。		
		学習内容	【整理しよう】 ・自分の持ち物と片づける場所にマークをして、同じマークの場所に片づける。	学習内容	【数学を書こう】 ・1〜10までの数字カードを用意し、数唱し、数字のなぞり書きを練習する。 ・書かれた数字と同じ数だけのものを取り出す。 ・縄跳びを数唱しながらとび、とんだ数を書き表す	学習内容	【10といくつ?】 ・具体物を10のまとまりで分ける。残った数を数え、10と〇個で10個と数える。 ・10, 20, 30...の数え方を声に出して数える。	学習内容	【身近なものからみつげよう】 ・身近なものから4桁までの位の数をみつける。 【身近なものを数えよう】 ・クラスの人数を数えたり、読んだ本の数を数えたりする。	学習内容	【大きな数】 ・文章題に取り組む。 ・1000円札2枚でいくらかを求めると。 ・100円玉5枚でいくらかを求めると。 ・14000は1000を何個集めた数かを求めると。 ・1000を24個集めた数を求めると。 ・一万を7個, 千を2個, 百を6個あわせて数を求めると。 ・お金の大小を不等号(<, >)を使って表す。	学習内容	【分数で表すと?】 0, 1と表記されたカードを10枚用意し0, 7は0, 1の7個分, 1/10の7個分にあたる7/10と表すことを確認する。 【少数で表すと?】 ・1/4を1÷4と確認するために、1つのケーキを4等分に切って確認する。		
		知技	⑮対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、錯覚を協応させながら捉えること。	知技	⑮二つの数を比べて数の大小が分かること。	知技	⑮一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数の数と関係付けてみること。	知技	⑮加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。	知技	⑮ある数の10倍, 100倍, 1000倍, 1/10, 1/100などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。	知技	⑮整数の除法の結果は、分数を用いるときと常に一つの数として表すことができることを理解すること。		
		学習内容	【合わせてみよう】 ・1枚の絵やマークを分割し、組み合わせる。徐々に分割する数を増やす。上下左右の分割も組み合わせる。	学習内容	【●●の数】 ・教室内にあるもの(机, いす)を数え、カードに置き換えて数えたりする。カードの枚数を確認し、「大きい」「小さい」を考える。	学習内容	【みんなに配ろう/みんな分けよう】 ・カードゲームで配り方を学ぶ。 ・ウノ...7枚ずつカードを配る。 トランプ...等分してカードを配る。	学習内容	【まとまりで表そう】 ・答えの数が10や100などのまとまりいくつ分かを表す。	学習内容	【計算しよう】 ・700+500の計算の仕方を、硬貨を使って確かめる。式や筆算で表す。	学習内容	【計算】 ・掛け算・割り算(V) ・ある数の10倍, 100倍, 1000倍を求めると, 5×10, 2×100, 7×1000を求めると。 ・ある数の1/10, 1/100を小数点を左に移動して求める	学習内容	【どこまで減ろう?】 ・割り切れる数を割り切れない数を題材に考える。(4÷3=1.333...) ・割り切れない数に対して、例えば4÷3=4/3と表記できることを確認する。
		知技	⑯対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、錯覚を協応させながら捉えること。	知技	⑯数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。	知技	⑯数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方, 表し方について考え、学習や生活で生かすこと。	知技	⑯一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数の数と関係付けてみること。	知技	⑯加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。	知技	⑯ある数の10倍, 100倍, 1000倍, 1/10, 1/100などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。	知技	⑯整数の除法の結果は、分数を用いるときと常に一つの数として表すことができることを理解すること。
	知技	⑰対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、錯覚を協応させながら捉えること。	知技	⑰数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。	知技	⑰数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方, 表し方について考え、学習や生活で生かすこと。	知技	⑰一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数の数と関係付けてみること。	知技	⑰加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。	知技	⑰ある数の10倍, 100倍, 1000倍, 1/10, 1/100などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。	知技	⑰整数の除法の結果は、分数を用いるときと常に一つの数として表すことができることを理解すること。	
	知技	⑱対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、錯覚を協応させながら捉えること。	知技	⑱数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。	知技	⑱数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方, 表し方について考え、学習や生活で生かすこと。	知技	⑱一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数の数と関係付けてみること。	知技	⑱加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。	知技	⑱ある数の10倍, 100倍, 1000倍, 1/10, 1/100などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。	知技	⑱整数の除法の結果は、分数を用いるときと常に一つの数として表すことができることを理解すること。	
	知技	⑳対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、錯覚を協応させながら捉えること。	知技	⑳数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。	知技	⑳数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方, 表し方について考え、学習や生活で生かすこと。	知技	⑳一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数の数と関係付けてみること。	知技	⑳加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。	知技	⑳ある数の10倍, 100倍, 1000倍, 1/10, 1/100などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。	知技	⑳整数の除法の結果は、分数を用いるときと常に一つの数として表すことができることを理解すること。	
	知技	㉑対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、錯覚を協応させながら捉えること。	知技	㉑数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。	知技	㉑数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方, 表し方について考え、学習や生活で生かすこと。	知技	㉑一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数の数と関係付けてみること。	知技	㉑加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。	知技	㉑ある数の10倍, 100倍, 1000倍, 1/10, 1/100などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。	知技	㉑整数の除法の結果は、分数を用いるときと常に一つの数として表すことができることを理解すること。	
	ウ 数えることの基礎	知技	⑲もの有無に気付くこと。	知技	⑲〇の意味について分かること。	知技	⑲加法が用いられる合併や増加等の場合について理解すること。	知技	⑲2位数の加法及び減法について理解し、その計算ができること。また、それらの筆算の仕方について知ること。	知技	⑲概数が用いられる場面について知ること。	知技	⑲分数の相等及び大小について知り、大小を比べること。		
学習内容		【減っていくよ】 ・教員が、箱の中に興味のある具体物一つずつ入れていき、「減少していくよ、なくなるよ」体験をする。少しずつ自分でもやってみる。	学習内容	【●●ゲームをしよう】 ・輪投げやボウリングなどの得点が内場について学習する。 ・手元にボールや輪がなくなった状態「何もない状態」を0とすることを学習する。	学習内容	【合わせていくつ?/増えるといくつ?】 ・袋に手を入れ、おはじきをつかんで出す。いくつつかめたか数える。 ・自分と友達のおはじきを合わせるといくつになるか数える。 ・もう一度おはじきをつかんで出す(2回目)。自分の持つおはじきが何個に増えたか数える。 【数と計算】 ・足し算で得点の計算をする。	学習内容	【計算しよう】 ・45+5, 30-4の計算の仕方を学ぶ。式と筆算で表す。	学習内容	【電卓を使おう】 ・全クラスの人数を足して全校生徒の人数を計算する。 ・クラスで休んだ人数を引き、今日の出席人数を調べる。	学習内容	【人口】 ・日本の人口, 各国の人口などの統計表などで、日常的におよその数が利用されていることを知る。	学習内容	【どちらが大きいの?小さい?】 ・ピザのイラストを使い、共通の分母になることを確認し、大小を比べる。 「8等分のうちの3枚と2等分のうちの2枚はどちらが大きいの?」	
知技		⑳目の前のものを、1個, 2個, たくさんで表すこと。	知技	㉑一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたり表すこと。	知技	㉑加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。	知技	㉑簡単な場合について3位数の加法及び減法の計算の仕方を知ること。	知技	㉑数の関係に着目し、数の適用範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすこと。また、日常生活で生かすこと。	知技	㉑四捨五入について知ること。	知技	㉑数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察すること。	
学習内容		【1こ, 2こ, たくさん】 ・「1個のボール」「2個のボール」「箱に入ったたくさんのボール」を用意し、子どもと一緒に「1こ」「2こ」「たくさん」と復唱する。復唱だけでなく、触ったり、指さしたりしながら確認する。	学習内容	【分けてみよう, 合わせてみよう】 ・興味のあるキャラクターやおはじきなどを用意し、教員が示した数のまとまりに分ける。 3を1と2に分ける。 【5までの数を数えよう】 ・1〜5までの見本の数字の上に同じ数字カードを置く。虫食いにした1〜5までの見本の数字の上に数字カードを並べる。	学習内容	【足し算の計算】 ・的あてなどの得点ゲームを行う。1回目の得点と2回目の得点の合計を計算式に表す。 例) 2+3 ○○ ○○○ ・計算式の数字を〇で表し、数を数えて計算する。 【数と計算】 ・合わせていくつ?の文章に着目して、文章問題から式を立てて計算する。 【足し算をしよう】 ・式の数字に合わせて具体物を置き、実際に計算を行う。	学習内容	【計算しよう】 ・99+1=100, 103-3=100などの計算をする。	学習内容	【文章問題を解こう】 ・「あきさんは折り紙を34枚持っていました。このうち18枚使いました。残りは何枚でしょうか。」などの文章問題を通して、加法減法どちらで計算すればよいか考える。	学習内容	【四捨五入の意味と活用】 ・四期計算 ・四捨五入という言葉と意味を知る。 ・切り捨て、切り上げを理解し、四捨五入した数を求める。	学習内容	【いろいろな分数】 ・2/3について考える。 ・ピザのイラスト(大きさ), ペットボトル(量), 大きさの異なる紙(大きさの割合)などから、2/3について具体的に考える。	
知技		㉒目の前のものを、1個, 2個, たくさんで表すこと。	知技	㉓一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたり表すこと。	知技	㉓加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。	知技	㉓簡単な場合について3位数の加法及び減法の計算の仕方を知ること。	知技	㉓数の関係に着目し、数の適用範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすこと。また、日常生活で生かすこと。	知技	㉓四捨五入について知ること。	知技	㉓数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察すること。	
知技	㉔目の前のものを、1個, 2個, たくさんで表すこと。	知技	㉔一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたり表すこと。	知技	㉔加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。	知技	㉔簡単な場合について3位数の加法及び減法の計算の仕方を知ること。	知技	㉔数の関係に着目し、数の適用範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすこと。また、日常生活で生かすこと。	知技	㉔四捨五入について知ること。	知技	㉔数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察すること。		

ア 整数の性質及び整数の構成

ア 整数の表し方

ア 整数の表し方

ア 整数の表し方

イ 整数及び小数の表し方

イ 整数及び小数の表し方

イ 分数

イ 整数の加法及び減法

イ 整数の加法及び減法

ウ 整数の加法及び減法

A 数量の基礎

イ ものともとを対応させること

B 数と計算

ア 具体物

ア 10までの数の数え方や表し方・構成

言葉の特徴や使い方

ウ 数えることの基礎

(2) 学びが途切れない授業計画

児童・生徒の学びが途切れることなく発展、展開していけるような授業計画をたて、学年間のつながりを中心に各学部で検証した。

① 小学部の実践(音楽科/器楽)

小学部の音楽科では、段階的に音楽に興味を持ち、発展させていくことで日常生活の中でも好きな音楽を見つけ、自分なりに表現できるようにすることを目指している。

<p>STEP1 低学年(1、2年生)</p> <p>様々な楽器を扱い、好きな音が出る楽器や鳴らしやすい楽器など、興味のある楽器を見つける学習を実施した。自分で楽器を選び、振ったり、叩いたりして自分なりの方法で鳴らし奏でる楽しさを経験した。</p>	
<p>STEP2 中学年(3、4年生)</p> <p>デスクベルや木琴などで曲のリズムに合わせて楽器を演奏する学習に取り組んだ。『かもつれっしゃ』の題材では、「シュ・シュ・シュ」のリズムに合わせて、演奏する学習を行った。</p>	
<p>STEP3 高学年(5、6年生)</p> <p>パートやリズムを意識して楽器を鳴らす学習を行った。『山の音楽家』の題材では、歌詞に出てくる楽器を児童が演奏しやすい「タンブリン」や「鈴」などに変え、自分の楽器のパートでリズムに合わせて演奏する活動に取り組んだ。</p>	

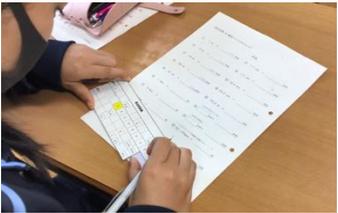
② 中学部の実践(理科/生命)

実際に植物に触れながら変化を感じるようにすることで、身の回りにある植物や動物などの生命に自らかかわり変化に気づいたり、感じたりできるようになることを目指している。

STEP 1 1学年	
<p>実際に野菜を育てる中で成長には、肥料、水や光などが必要であることを学習する。また、日々の観察で芽が出ること、花が咲くことや実ができることなど育つ順序についても学習を行う。タブレット端末のカメラ機能で記録写真を撮り、変化する様子を残している。</p>	
STEP 2 2学年	
<p>ジャガイモとナスを育て日々観察することで育ち方の違いを学習する。また、それぞれの苗の変化をポスターにまとめて記録に残している。</p>	
STEP 3 3学年	
<p>1年間通して枝豆を育てることで季節や気候に応じた成長の変化についての学習を行っている。収穫した大豆と枝豆の感触を比較して違いを学習する。</p>	

③ 高等部の実践(数学/測定)

測定の学習を行うことで日常生活場面でも目的に応じて計器を選択できたり、買い物で必要な分量や大きさを判断して購入したりすることができるようになることを目指している。

STEP 1 1学年	
<p>実際に計器を使って長さ、重さ及びかさなど測定する学習を行う。</p>	
STEP 2 2学年	
<p>cm(センチメートル)とm(メートル)やg(グラム)とkg(キログラム)など単位変換の学習を行い、測量について学習を深めた。</p>	

(3) 2年間の研究成果

① 児童・生徒の視点から

児童・生徒たちは、予測困難な未来社会に主体的に関わっていくために自ら考えて、判断し、行動する力が必要である。2年間の取り組みの中で児童・生徒の生活を具体的にイメージして、身につけさせたい力を明確にした単元を設定し、各教科の示す3観点（「知識及び技能＝何を理解しているか、何ができるか」「思考力、判断力、表現力等＝理解していること・できることをどう使うか」「学びに向かう力、人間性等＝どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」）を常に意識した授業を計画してきた。このような取り組みを継続的に実践することで、授業での学びが生活で活用される場面が見られるようになった。

中学部（国語科/文字を書く学習）		
授業前 語彙が少なく、限定された文字は、書くことができる。自分の要求を伝えることが難しい現状。		授業後 語彙の拡充、書ける単語が増えたことで要求を相手に伝えることができるようになった。以前よりもコミュニケーションの広がりが見られた。
		

高等部（数学科/割合の学習）		
授業前 欲しい物があつたときは、近くのスーパーに買いに行く。		授業後 値引き（割引）の計算ができるようになり、お店ごとの値段の比較ができるようになり購入する店や商品の選択肢が広がった。
		

② 教職員の視点から

冒頭でも述べたように本校は、一人の教員が複数の教科の年間指導計画、学習内容や手立てを考え作成している。このような現状の中、専門教科以外の授業を計画するときの困難さや学習評価が曖昧であったため学びの連続性の確保が難しいという課題があった。研究推進校としての2年間の実践により教員が日々行っている授業作りの面でも成果があったと考えている。1つ目の成果としては、学習段階表、教材集を作成し、これらを活用することで、授業を計画する際に学習内容や教材のヒントを得られるようになった。2つ目の成果は、授業計画評価システム(図6)の構築である。先にも述べた学習段階表、教材集を活用した授業計画から授業の評価までの一連のシステムを構築したことで授業をフィードバックして次に生かすことができるようになった。また、月例協議会や単元打合わせ会で単元間、学年間のつながりを意識する機会を設定したことで従来の断片的な学びの様子ではなく連続性も確保、共有できるようになった。



(4) 研究を終えて

この2年間、田島支援学校では小学部、中学部、高等部、そして、さくら分教室と「児童・生徒の生活を豊かにするための教育課程の編成に向けて」という研究テーマに沿って、各校舎での月例協議会や合同で開催してきた合同授業研究会等を有意義に活用して研究を進めてきた。研究推進校としての取り組みは、一つの区切りとなるが、今後も歩みを止めることなく研鑽を深めていきたい。

今後の課題として、引き続き学習の連続性・系統性を意識した授業実践及び授業検討を行い、学びの連続性を維持できるようにしていきたい。また、保護者や放課後施設等など学校から離れた場所で生徒の支援や関わりをもたれている方と共有し、児童・生徒の生活が豊かになっているのかの検証もしていきたい。

結びになるが、学びの地図の完成は研究テーマにもある「児童・生徒の生活を豊かにするための」という「生活に豊かさをもたらす」教育活動のベースとなるものである。児童・生徒一人ひとりにとっての生活の豊かさとは何かを常に考え続け、授業実践や教材作成、保護者との連携など検討を重ねていきたい。

V 近年の実績

(1) 田島支援学校(両校)のこれまで

新学習指導要領の実施は小中学部が高等部に先んじることから、2017年(平成29年度)まず桜校から取り組みをスタートさせ、教育目標や基本的な考え方を整理し、2019年(平成31年度)に田島校での本格的な取り組みがスタートした。

① 桜校から始まった新教育課程作成の道のり

「どんな子どもを育てたいか」をまず『第一』に考えるべく、2017年学校長が打ち出した「育成したいこども像“自分を大切にできる子”」をもとに桜校全職員で子ども像について話し合ったところから、本校の新しい教育課程作成がスタートした。そこから生み出された学校教育目標をもとに学習指導要領に則った教育課程の整理と、その仕組みづくりに取り組んだ。すべての作成に関し、教職員全員で考えていくことが重要と考え、2017年スタート当初から全員参加のワーキングを計画的に実施した。

② 学校教育目標の設定から「育成する資質能力」の抽出まで

第1回の学部ワーキング(2017.3)で校長から出された「育成したいこども像“自分を大切に思う子ども”」から各学部で考える具体的な子ども像「〇〇な子ども」を出し合った。学習指導要領第1章総則の第2節「小学部及び中学部における教育の基本と教育課程の役割」の中で述べられている事項を「知」「徳」「体」の3つの要素として取り扱うこととし、各学部で出た「こども像：〇〇な子ども」を「知」「徳」「体」に照らし合わせて『具体的な子ども像』を導き出した。

学習指導要領第1章総則の第3節「教育課程の編成」にあるように、「学校教育全体や各教科等における指導を通して、育成を目指す資質・能力(本校では「知」「徳」「体」と捉える)を踏まえ」、「各学校の教育目標を明確化」することを目指し、前述の『具体的な子ども像』を学校教育目標とし、さらに各学部段階における学部の教育目標を設定した(2018)。さらに、2019年には、このこども像の具現化に向けて、どんな力が必要か(育成に必要な資質能力)を全職員で考え、数多く出た意見をグループ分けして抽出し、授業の中でこの力を育てていくことを教育課程の一つの軸とした。

③ 学習指導要領を踏まえた教育課程の編成

学習指導要領を踏まえた教育活動のさらなる充実を図り、偏りなく必要な力を身につけさせることができるよう、取り扱う内容について改めて整理し、学習場面における教科等の扱いについて明確化することを教育課程編成のもう一つの軸とした。

④ 2つの軸を中心にしたカリキュラムマネジメント

上記の2つを軸として作り上げた教育課程に基づき、組織的・計画的に教育活動の質の向上を図ること（カリキュラムマネジメント）を行っていきけるよう、桜校、田島校それぞれの児童生徒の段階、実態や学校の状況に合わせたシステム作りを行った。

(2) 桜校の具体的な取り組み内容

① 各教科の学習内容表、年間計画

全職員で教科別に分かれて教科ワーキングを行い、現行の授業を整理して新学習指導要領に照らし合わせ、「各教科の学習内容表」を作成した。各個人がもれなく学べるための仕組みとして「個別の学習内容表（のちに個別の段階表へ）」を作成。それに基づき計画的に各個人が学べるように「個別の年間計画」を作成し、学習指導要領の内容をどの授業でどのように学んだかが把握できるようにした。個別の学習内容表・年間計画はソフトを作り、PC入力できる形を進めていたが、システムの問題から継続困難になった。2020年度に課題別学習（国語科・算数科・自立活動）についての個別の年間計画を作成していくことを研究テーマとして取り上げて実施している。

② 領域等他の整理

これまで扱いがはっきりしていなかった「総合」「特別活動」「外国語」「道徳」「自立活動」を整理。新たな授業として「クラブ」「委員会」を、内容を変えた形で「総合」を設置。道徳、外国語についてはワーキングにて、こどもの実態をもとに扱いを定めた。新たな授業を盛り込んだ日課表を作成。自立活動については全員に自立活動シートを用いて目標設定する流れを作った。

③ 各教科の年間指導計画

各教科ワーキングで、現在行っている各教科の授業について学習指導要領に照らし合わせて整理し、どの単元で学習指導要領のどの内容を扱っているのかを整理したうえで、すべての内容を扱えるように考えて年間指導計画を作成した。年間指導計画の表には学習指導要領のどの内容を扱うか記載し、そこから学習指導略案に転載できるようにした。

④ 4つの軸を意識した授業づくりのための仕組みづくり

毎日行う授業を、「学校教育目標から抽出した育成する資質・能力」と「学習指導要領に則った指導内容」の2つの軸に沿った形で進められるために、学習指導略案にその2つについて記載する欄を設けた。より使いやすく継続性のあるものにするために3回の改訂を行った。また、略案に落とし込むだけでなく、授業者がそれをチームで共有して教育活動に活かしていけるように、毎週1回30分の「単元打合せ会」を設定した。これは新しい単元が始まる2週間前に実施し、授業までの間に各個人に合わせた支援の準備をできるようになっている。単元が終わったあとには「振り返りアンケート」をとり、次の学年に活かしていけるようにした。PDCAサイクルとしては、今後も改良が必要な点もある。

(3) 田島校の具体的な取り組み内容

桜校からの入学生と地域の中学校からの入学生で構成される田島校は、桜校に比べてさらに実態差が大きく、5つのコースからなるコース制をとっていることもあり、桜校の取り組みとはまた異なるシステムが必要となる。桜校で築いたものを土台とし、さらに田島校に合うカリキュラムマネジメントの形を模索した。

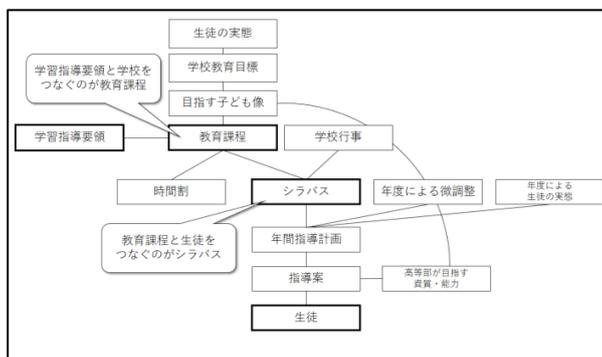
① 田島校の「目指す子ども像」

桜校の取り組みから始まり、2018年に小～高までの学校教育目標が設定された。ここから、桜校の取り組みを参考に、田島校も全職員が参加して「目指す子ども像」のアンケートを実施した。また、この「育成に必要な資質能力」を授業の中に活かしていくために、桜校で改良を重ねた学習指導略案をさらに田島校に合う形に改良した。

② シラバスの作成と改良～学習指導要領の示す学習内容の

履修を保証できる仕組みづくり～

5つあるどのコースにおいても、また、教職員が変わっていても生徒が履修すべき学習が保証できるためのシステムとして、シラバスの作成と改良がおこなわれた。教育課程をより具体的にして教科等の継続性を担保した「シラバス」の作成を学習支援係が提案し、シラバス検討チームが発足した。実態が学校全体の中間である



IVコースのシラバス作成に取り組み、月に一度研究協議日を設け、現在実践している授業内容を、学習指導要領を鑑みながら、シラバスに記入し、さらに3年間の継続した学習を見据えてシラバスに載せる文言を検討した。シラバス作成の中で、本校で実施している学習が学習指導要領の示す学習内容と合致しているか、また、桜校と本校で実施している学習の系統性を確認し、既習項目が重複していないか確認して、「教科・領域の学習内容表」を作成。また、それらをどの授業で学ばせるのかを分類するために「学習内容分類表」を作成した。分類する過程で移行した学習内容を、実際の授業場面に分かりやすく移行できるように、「学習内容移行一覧表」を作り、新しい形への移行がスムーズにできるようにした。

シラバスに沿って授業を実施し、その授業についてビデオ協議することを繰り返し、生徒の教育的ニーズに沿っているか、さらに、他学年との系統性、他教科との関連性などについても協議し、シラバスに反映した。

その後、コース別のシラバスを作成した後に、本校で扱うすべての教科の単元を一覧表に起こした。それぞれの単元で育てたい資質・能力に注目し、教科横断的な視点で単元の順番を入れ替え、効果的に育てたい資質・能力を扱えるように配列し直した。

③ 個別の指導計画

1. ASAの導入

平成28年度まではアセスメントツールとしてS-M社会生活能力検査を桜校・田島校で活用してきた。しかし、高等部では中学校支援級から入学した生徒の実態に変容が見られ、S-M社会生活能力検査ではアセスメントしきれないという課題が見えてきた。そこで、検査方法は同じだが、適応範囲が高校生までのASA旭出式社会適応スキル検査を導入することにした。ASA旭出式社会適応スキル検査を導入したことで、より広く深く生徒の実態が見えるようになった。この検査結果は個別の指導計画への反映やコース編成の判断材料、保護者との情報共有資料などに活用できた。

2. 「たじ個」の作成

個別の教育支援計画(サポートノート)の意義やそれにまつわるスケジュール、作成のための研修資料並びに手引きなどを冊子にした「たじ個」を作成し、配布した。今まで不透明だったサポートノートの全体像を全教員が把握することができ、抜けているページがないかそれぞれが確認することができるようになった。さらに、教員が作成するページは手引きを参照することで、不安なく入力することができるようになった。

3. 「ABC評価」「道徳の評価」「重点的に育てる資質能力」を表記

Vコースから始まり、全コースへの3段階評価を実施し評価を明確化した。また、道徳の教科化に伴い、道徳の評価欄を設置。また、学習活動の柱としておさえている「育成すべき資質能力」の中から、個別に重点的に育てる資質能力を表記することで、生徒・保護者とも共有していけるようにした。

④ 日課表、時間割を改訂

2019年、新学習指導要領に伴った、教科・領域の必要時間数の集計をして、授業時数検討表をもとに、時間割を作成した。2020年4月には基礎学習(国語、数学、理科、社会)を廃止、1つの授業として国語、数学、社会、理科、自立活動、道徳、保健体育(保健分野)新設した。

VI 参考資料

1. 国語

単元名	教科等	学部／課程／学年・学習グループ等
『 どこにある？ 』	国語	小学部/B課程/4年生
<p>【教材のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉と場所の一致 ・同じ場所の異なる写真のマッチング 		
<p>【田島の学習段階表と学習指導要領から】</p> <p>知識及び技能【小1段階/A(ア)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 <p>思考・判断・表現等【小1段階/A 聞くこと・話すこと/イ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。 <p>学びに向かう力・人間性等【小1段階/ウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。 		
<div style="text-align: center;">  </div> <p>【 場所の分類 】</p>		
<p>【素材・作り方等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの好きな活動場所を、様々な時間や角度から撮影します。 ・分類しやすいように、箱や厚紙などで枠を作ります。 ・枠に見本の写真を貼り付けてそれを手掛かりに分類ができるようにします。 		
<p>【教材等の紹介：使い方例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ活動場所同士を仲間分けする。 ・場所と場所の名称の一致ができるように、教員が場所の名称を伝えながら取り組む。 ・同じ場所でも時間帯や、角度によって見え方が異なることをイメージできる。 		

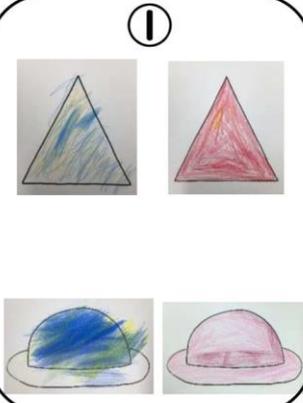
2. 算数・数学

単元名	教科等	学部/課程/学年・学習グループ等
『 どちらに入っているかな? 』	数学	中学部/B課程/2年生
<p>【教材のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 物の、ある・ないを認識させる。 マッチングをすることで、1～5までの数量の一致を図る。 		
<p>【田島の学習段階表と学習指導要領から】</p> <p>知識及び技能【小学部1段階/A数量の基礎/A(ア)①】</p> <ul style="list-style-type: none"> 隠されたおもちゃを、目で追うことができる。 <p>思考・判断・表現【小学部1段階/A数量の基礎/A(イ)②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 二つの選択肢から、選ぶことができる。 <p>学びに向かう力・人間性【小学部1段階/A数量の基礎/ウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量に気付き、学習に関心をもって取り組もうとしている。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ペットボトル キャップ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>マグネットシート</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>マグネット</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">【 数に合わせて入れてみよう！付けてみよう！ 】</p>		
<p>【素材・作り方等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数字と、数字に該当する数のペットボトルキャップをボードに貼ります。キャップと同じ色のポンポンボールを用意します。(ポンポンボール：100円ショップにて購入) マグネットシートに色ペンで数字やマグネットの数の印を記入します。 		
<p>【教材等の紹介：使い方例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポンポンボールのマッチングができるので、そこに数字を添えてみました。 印めがけて、マグネットを置くことができるので、そこに数字を添えてみました。 		

3. 音楽

単元名	教科等	学部/課程/学年・学習グループ等
『音のカーニバル』	音楽	小学部/B課程/1・2年生
<p>【教材のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自発的に楽器に手を伸ばす ・操作することによって音が鳴ることに気付く 		
<p>【田島の学習段階表と学習指導要領から】</p> <p>知識及び技能【小1段階/A表現/ア音楽遊び(ウ)①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽を感じて音を出す技能 <p>思考・判断・表現【小1段階/B鑑賞/ア音楽遊び(ア)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見つけようとする。 <p>学びに向かう力・人間性【小1段階/ウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽(楽器を鳴らすこと)の学習に進んで取り組み、意欲的に学ぼうとしている。 		
<div style="text-align: center;"> </div> <p>【触って見て聴いて♪手作り楽器】</p> <p>木製、プラスチックビーズ</p>		
<p>【素材・作り方等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透明ホースの中にビーズや小さい鈴を入れます。ホースの先は布ガムテープを巻きつけて中身が出ないようにします。 ・100均の調理用ステンレスパットに、ビーズを通したゴムを布ガムテープで貼り付けます。引っ張りやすいように、若干ゆとりを持たせて貼ります。 		
<p>【教材等の紹介:使い方例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引っ張る、こする、たたく、振る、傾ける等して音を鳴らす。 ・思わず触りたくなるように、本児が普段好んでいるおもちゃに近い素材で作成した。 ・目で見ても楽しめるようにカラフルなビーズや鈴を使用した。 		

4. 図工・美術

単元名	教科等	学部/課程/学年・学習グループ等
『 ぼうしを作ろう 』	美術	中学部/B 課程/1・2・3年生
<p>【単元のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 液体粘土の感触に触れて作品を作ることができる。 自分のイメージに合わせて形や色を選ぶことができる。 		
<p>【田島の学習段階表と学習指導要領から】</p> <p>知識及び技能【中学部Ⅰ段階/知識/共通事項（ア）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 形の違いに気づき、液体粘土の感触に触れ、特徴について知ることができる。 <p>思考・判断・表現【中学部Ⅰ段階/A 表現/A（ア）】</p> <ul style="list-style-type: none"> イメージに合わせて、形や色を選んで表現することができる。 <p>学びに向かう力・人間性【中学部Ⅰ段階ウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 液体粘土を使った学習に進んで取り組むことができたか。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">①</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">②</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">③</p>  </div> </div> <p style="text-align: center;">【 ぼうしを作ろう 】</p>		
<p>【素材・作り方等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①では、三角の帽子と丸い帽子の中から自分のイメージに合う方を選び、どんな帽子を作りたいのか色を塗っていきます。 ②：三角の帽子は、画用紙で作った台紙を用意して、その上に液体粘土をつけます。丸い帽子は、ボールに布をかぶせて、その上から液体粘土をつけます。自分の作りたいイメージに合わせて、液体粘土に絵の具を混ぜてから塗ったり、液体粘土をつけた後に筆を使って絵の具をつけたりします。 ③：見本 		
<p>【単元等の紹介：実施例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業では、写真や動画、スライドなどの視覚支援を使って説明をします。 1時間目に、画用紙に描かれた三角の帽子と丸い帽子の色を付けてイメージを作り、2時間目に液体粘土を布や三角の帽子の形をした台紙に付けて作品を作ります。 生徒が液体粘土と絵の具を混ぜるようにして、混ぜり加減も自分で決められようにします。 授業の最後には、完成した作品や写真を見ながら鑑賞します。 		

5. 体育・保健体育

単元名	教科等	学部/課程/学年・学習グループ等
『 陸上競技（投擲種目） 』	保健体育	高等部/A課程/1～3年・I、IIコース
<p>【教材のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投擲動作が自力では難しい生徒でも、投擲競技を行うことができる。 ・角度をつけることが可能となり、角度の目安があることで理想の投擲軌道を描くことができる。 		
<p>【田島の学習段階表と学習指導要領から】</p> <p>知識及び技能【高等部Ⅰ段階/C/陸上競技/A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技能を身に付けること。 <p>思考・判断・表現【高等部Ⅰ段階/C/I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。 <p>学びに向かう力/人間性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動における多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自己の最善を尽くして自主的に運動をする態度を養う。 		
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>【 誰でもやり飛ばせるくん 】</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 20px;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p>【 素材 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ 1.5cm ほどの木材×2 ・釘 ・太めのゴム ・毛糸 ・平たいハンドルのハサミ ・ラップの芯 </div> <div style="width: 45%;"> <p>【 作り方 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材の1本を半分に切断、写真の形になるよう釘で止める ・短い木の端に釘を打ち、ゴムを結ぶ ・長い木の端にハサミを設置、ラップの芯で発射物作成 </div> </div>		
<p>【教材等の紹介：使い方例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴムにやりを引っ掛けて引っ張り、糸で固定し、ハサミで糸を切って発射する。 ・5段階に高さを調節することができる。 		

Ⅶ 参考文献・引用文献

【文部科学省】

- 特別支援学校幼稚部教育要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領
- 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部,小学部,中学部）
- 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部,中学部）
- 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編
- 特別支援学校高等部学習指導要領
- 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）
- 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）（高等部）
- 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）（高等部）
- 特別支援学校高等部学習指導要領上下
- 特別支援学校学習指導要領改訂のポイント
- 特別支援学校高等部学習指導要領のポイント
- 児童生徒の学習評価の在り方について（報告）
- 特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料
- 新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について
- 教科書指導書 こくご☆ こくご☆☆ こくご☆☆☆教科書解説
- 教科書指導書 国語☆☆☆☆ 国語☆☆☆☆☆ 教科書解説
- 教科書指導書 さんすう☆ さんすう☆☆ さんすう☆☆☆教科書解説
- 教科書指導書 数学☆☆☆☆ 数学☆☆☆☆☆ 教科書解説
- 教科書指導書 おんがく☆ おんがく☆☆ おんがく☆☆☆教科書解説
- 教科書指導書 音楽☆☆☆☆ 音楽☆☆☆☆☆ 教科書解説

【実践みんなの特別支援教育】

- 2017年8月号、10月号、11月号
- 2018年4月号
- 2019年2月号、8月号
- 2020年8月号

【明治図書】

- 特別支援教育における3観点の「学習評価」 【各教科・段階別】通知表の文例集と記入例

Ⅷ 研究同人

アドバイザー 横浜国立大学 渡部匡隆 教授

川崎市総合教育センターカリキュラムセンター、
特別支援教育センター指導主事の皆様

○学校長
稲葉 武

○副校長
堀田 美憲

田島校

桜校・さくら分教室

○研究主任
長谷川 修

○研究主任
鈴木 洋介

○研究係
紅 林 仁
佐 藤 卓 巳
高 橋 龍之助
中 垣 友 花
目 黒 雅 恵

○研究係
小 松 智 恵
佐 藤 梓歩子
樋 口 裕 也
松 山 彩 音
吉 川 将 平

○教育課程編成係
新 井 理 央
青 柳 千 昌
木 下 直 己
佐 川 澄 夏
中 野 正 太
三 澤 菜 央

○教育課程編成係
小 栗 愛
坂 本 実 優
清 水 諭教立
志 村 莉 紗

○学習支援係
阿 部 理佐子
伊 藤 紗 貴
下 荒 茜
竹 内 玲 美
古 屋 多恵子
丸 山 倫 香
村 上 博 樹

○学習支援係
新 井 智 大
佐 藤 眞 哉
棚 原 千 晶
畠 山 愛 咲

○肢体教育部門担当
高 橋 道 子

○肢体教育部門担当
信 岡 真 弓

○知的教育部門担当
角 皆 みゆき
木 内 亜 矢

○知的教育部門担当
半 田 克 利